

令和2年度第1回南アルプス市総合教育会議 議事録

1. 日 時 令和3年2月9日(火)  
開会 午後14時 閉会 16時10分

2. 場 所 甲西支所2階 第2・3会議室

3. 議 題

1. 学校施設の整備について
  - 学校施設整備計画と長寿命化計画
  - 適正な規模と適正な配置
2. 小中学校における新しい生活様式について
  - ICT教育（GIGAスクール構想）
  - 感染症予防対策

4. 出席員

市 長	金 丸 一 元
教育長	増 山 希 世 彦
教育長職務代理者	今 村 大 秀
委 員	渡 邊 正 義
委 員	室 田 直 樹
委 員	小 野 ゆ り

5. 説明員

教育部長	柴 田 肇
教育総務課長	小 池 肇
教育総務課課長補佐	飯 野 一 幸
教育総務課主幹	清 田 勇 治
学校教育課長	浅 利 司
学校教育課指導監	笹 本 信 二
学校教育課指導主事	八 卷 一 貴

6. 事務局

総合政策部長	内	田	淳
政策推進課長	野	田	剛
政策推進課主幹	深	澤	竜馬
政策推進課主査	齋	藤	雄

7. 傍聴人 2名

司会進行：事務局（政策推進課課長）

### 1 開会（政策推進課長）

本日はお忙しい中、ご参集いただき感謝申し上げます。次第に沿って進めていく。まず、市長からご挨拶を申し上げます。

### 2 市長あいさつ（金丸市長）

本日は、第1回目の総合教育会議となるが、「学校の施設整備について」並びに「小中学校における新たな生活様式について」の現状と今後について、ご協議いただきたい。

教育施設の中でも、学校施設は未来を担う子どもたちが集い、学び、生活する場であり、欠かせない場所である。これまでも学校施設は、耐震化や大規模改修に取り組んできたが、多くの校舎が建築後、長い年月を経過しているため、大々的な更新の時期を迎えている。

また、一方では少子化による児童・生徒の減少や少人数学級の設置など、学校施設についてあらためて考えていかなければならない。

本日は、現状の計画内容を確認するなかで、様々な課題を共有していただき、今後の学校施設の在り方について御意見等頂ければと考えている。

また、「新しい生活様式について」は、感染症予防対策とICT教育の推進である。本市においては、新型コロナウイルス感染症対策による地方創生臨時交付金を活用して、一人1台を前倒して今年度整備した。この4月から各学校において活用が始まるが、その活用方法や感染症予防対策の現状について担当から説明する。

どちらの議題も市内小中学校の児童生徒の学校生活において非常に重要な課題であるので、様々なご意見をお願いしたい。

### 3 協議事項（進行：金丸市長）

#### 1. 学校施設の整備について（教育総務課）

- 学校施設整備計画と長寿命化計画
- 適正な規模と適正な配置

#### 【教育総務課】

資料に基づいて説明

#### 【質疑応答】

渡邊委員：私が教員になった昭和47年に若草小学校が丁度統合され、それから

48年経つ。長寿命化計画は非常に大事である。若草小学校に続いて違う学校も改修等の必要が出てくるのではないかと思うが該当はあるか。

教育総務課：老朽度の調査は全て行っており、優先順位はつけているが、地域の状況、学校の状況及び財政状況を総合的に判断して決める。

室田委員：本市の教育施設が非常に老朽化している事に対し、長寿命化として目指している方向を知ることができた。小中学校に付随する文化施設等の補修に限られた予算の中で長寿命化していこうという努力の姿勢が見えた。小中学校は耐震化などの大規模改修が進んでいることについて感謝している。

また、学校の統廃合について、本市でも将来的に無いとは言えないが、学校は地域で大事にしているので、地域の学校を残して欲しい。

来年度25人学級導入があれば学級数が増えるが、その対応についても検討していただきたい。

教育総務課：来年度から小学校1年生が25人学級となる。中には学校施設を改修しないと対応できないケースもあるが、学校の状況に応じ準備を進めている。

市長：改築は統廃合の問題がついてまわる。今後の人口減少が予測されるため、適正な改築規模の見極めが難しい。御勅使中学校を改修した際も、耐用年数50年（長寿命化すると80年）の鉄筋コンクリートで施工することが本当に必要か議論になったが、地元からも要望があり鉄筋コンクリートで行った。

今後西側地域を中心に、客観的に見て統廃合が必要な地域が出てくると思う。その一方、地域の支えあい協議体は小学校単位で構成されているため、様々な分野との兼ね合いがあり非常に難しく、急に実行しても反対多数が予想されるため、今から備えておかないとならない。来年度あたりから、そのことについてご意見をいただきたい。

小野委員：学校へのエアコン導入について南アルプス市は他市より早く導入しており、必要な事を見極める先見の明を持ち計画を進めていると思う。

今後はコロナウイルスを考慮した上で災害の避難場所を考えなければならないため、改築・改修について知恵を絞って進めてほしい。

教育総務課：空調については、普通教室及び特別教室への配置を今年度完了した。避難所についても防災危機管理課と連携しながら対応していきたい。

今村委員：若草小学校が長寿命化に対応できる躯体かどうかの問題が起きている。他にも対応できない学校があるのか教えていただきたい。

また、今後考えられることが、人口減少やコロナにより社会環境が大きく変わっている。長寿命化計画は5年毎に見直すとのことだが、常に柔軟な対応で見直さないまでも検討していくという姿勢が必要だと考える。

教育総務課：他の学校についても詳細の耐力度調査をしないとわからない。若草小学校が終わった時点で老朽化度が進んでいる学校に耐力度調査を実施し、結果により方針を決める。

また、今後の計画遂行について、環境の変化による見直しは必要であると考えている。

教育長：教育施設は学校含めて47施設ある。今後も老朽化の施設を改修するには非常に大きな費用と年数がかかる。費用を抑えるため長寿命化計画に沿って進めていく。

施設の適正化検討委員会から、学校については適正な配置がされており、また統廃合については財政面から論ずるものではないという提言をいただいた。これを頭に入れながら、早くから事を進めていかなければならないということもあるため、知恵を絞って多くの皆様で協議をするべき。

### 【市長】

今後は財政が非常に厳しくなる。合併特例債が合併当時400億くらいあったが、10億を切ったため、学校や教育施設に特例債を使えない。公共施設等整備基金が47億程度あることが救いだが、学校施設を立て直すと20億程度かかるため、将来的に非常に厳しいという前提で今後ご意見をいただきたい。

## 2. 小中学校における新しい生活様式について

- 感染症予防対策
- ICT教育（GIGAスクール構想）

### 【学校教育課】

資料に基づいて説明

## 【質疑応答（感染症予防対策）】

渡邊委員：時間数がないということは、子どもの学習にも差が出てしまい、また、新しい学習指導要領になる中で、それらを取り入れることで学校現場は大変な状況であったと思う。その中で学習の進捗について親からの苦情等があったかどうか

また、コロナが来年度無くなるとは言えない中、学校と教育委員会で連携して進めていき、対応を取り組んでいただきたい。

学校教育課：休校中には、詰込みになるのではないかと、時間数が足りないのではないかと不安の声を多くいただいた。また、学校を始めないでほしいといった意見もあった。授業がどのくらい足りないのかという具体的な問い合わせより感情的な問い合わせが多かった中、丁寧に説明を行った。

正直詰込みになってしまい、来年度も一部補充をしながら進めていかなければならない。新しい教育課程を組んでいかなければならない中でそちらの検証をしなければならないが、十分にできるのか心配。

コロナへの今後の対応だが、現在学校は社会で一番安全と言えるくらい先生が消毒や手洗いの努力しており、効果が出ているのではないかと。修学旅行でも複数回の検温や健康チェックを行った。こうした取り組みは今後も続けなければならない。

室田委員：2校学校訪問したが、一丸となって綿密に対策を行っている。1件発生してしまったが、幸いにもそれ以上拡大しなかったことには感謝している。長期休校での授業の遅れや、学校行事も少ない影響で切り抜けられたのは良かった。

児童生徒間の話し合い活動がコロナの影響で進展しないこともあったと思うが、早く目指す学校教育の構築ができるよう祈っている。

小野委員：心理士として学校現場に行くが、換気や消毒など、感染対策に非常に気を使っている。

行事が少なくなったことで、改めて行事の大切さを感じている。節目としての成長や喜び、目標が学校生活であることで一年を乗り切る子どももいる。休校明けで不登校も少なくスタートしたが、行事が無いとメリハリが立たなくなるのが心配。

人と触れ合うことで心が成長するので、同級生のみならず縦割りを含めた異学年とのふれあいをどの様に行っていくのか教えていただきたい。

また、学習支援スタッフ、スクールサポートスタッフとして消毒専門にしてくれた、目に見えないところも支えてくれた。来年度もコロナの状況が変わらない場合、これまでと同様に関わってもらえるのか。

学校教育課：行事の縮小では子どもに寂しい思いをさせた。極力削らない方針の中で、修学旅行をここまでやり切った市町村はなかなかない。ただ、そんな中削ってしまった行事も沢山あった。人とのふれあい活動をどの様にフォローするかは、コロナ禍において簡単ではないが、できることをやっていきたい。

また、支援のスタッフについては、国の方も重要性には気づいている。来年も国県をはじめ市も予算をつける方針である。今年並みとはいかないまでも学習支援のスタッフを配置していきたい。

今村委員：感染対策でも教育課程でも乗り切れたことに感謝したい。今後も子どもたちが少しでも今までどおりの活動ができるようご努力いただきたい。

教育長：学校訪問の際に、生徒を見てもマスク着用だけでも我慢していたが、先生がマスク越しに表情を豊かに明るい声で身振り手振りを交えて授業している姿に感動した。普段以上に先生が努力をしている。

学習指導員やスクールサポートも市の予算でつけて配置されたが、あらゆる場所を消毒している姿を見て、これを先生がやっていたらどうなっていたか。来年度もスタッフを配置して取り組んでいきたい。

修学旅行について、橿形中学校は延期したが、代わりに日帰り旅行を計画して行った。

甲西中学校は市内学校で感染が発生したため止む無く中止としたが、先生には出来る限りのことをやってもらっており、保護者や地域の方々にも学校の対応に理解をいただいていることに感謝したい。

#### 【質疑応答（ICT教育（GIGAスクール構想））】

渡邊委員：今からこうした教育が進む期待があるが、過去色々なものが予算を使って学校に入ってきたが、最終的に使われなくなった経緯があるため、子どもにとって、教師にとってのメリット及びデメリットを教師が知ることが大事。

小学校と中学校では取り組みも取り扱いも違うと思うが、具体的にどうい

ことをやるのか。

また、南アルプス市の中で本教育が実践されている学校があれば教えていただきたい。

教師の研修が始まっているが、先生が教材研究しないと授業が作れないと思う。作るための力量や時間を確保できるのかどうか。

来年度学校訪問においてこの授業が見学できる場面を是非とも作ってもらいたい。

学校教育課：先生のメリットは、デジタル化されるため、教材の配布及び回収が端末を利用してできる。印刷をして集めて丸付けをする時間が短縮される。採点もできるアプリもあるなど、働き方改革にもつながる。デメリットは、新しい技術を習得していくのがハードル。研修を通じて技術を習得していくが、得意なアプリから授業で使ってほしいと先生には伝えている。子どものメリットとしては、アナログや文字で理解していた情報が、動画で視覚的に理解することができる。デメリットは使用しすぎる危険があること。先生への研修、子どもへのリテラシー教育を通じ、ベストバランスを目指してもらおう。

研究学校について、源小学校では授業を公開してもらい、県からも視察に来た。取材も来て好評だった。

落合小学校については、継続的に取り組んでおり、来年度研究指定校として進めていく。

学校訪問についても来年度できるだけやっていく予定。

室田委員：コロナ禍でオンラインの重要性が増している中、ICT教育は必須。本市でも一人一台端末を整備するなど、ICT教育対応の素早さには感謝している。今後一人一台端末を生かす授業環境の構築、児童生徒の能力向上及び指導教員の育成に更に努力してもらいたい。また、ICT教育は重要だが、教師と児童生徒の血の通った育成も大事なので、並行して行っていただきたい。

小野委員：学び方が様々になっているのは夢のあることで、個々の才能がそれぞれ広がってほしい。不登校の子どもが学校とつながるツールとしても、大きな期待もある。

教育支援センターの子どもに対しての利用がどの様になるか教えてほしい。

また、実際家に持って帰ることがあれば、閲覧制限をはじめとした規制について分かりやすく解説してほしい

学校教育課：不登校の子どもにとって、リモートで授業が受けられることは、や



りようによって大きな効果を生み出すかもしれない。実際不登校の子どもや保護者に話をしているケースもあり、できるところからやっていきたい。

不登校の子どもが通う施設のウイングでもいずれ活用して、それぞれの学校の授業をリモートで見られるようにして、学校に戻るきっかけづくりできるようにしていきたい。

端末の家への持ち帰りについて、目標としては来年度の1学期にリテラシー教育をして、9月からできたらと思っている。宿題としてAIドリルを配布して端末で回答することができる。

フィルタリングは厳しいものを採用する。日中の学習で動画等を活用するため、学習時間と学習時間外でフィルタを区別することもできる。

時間での規制では、22時～6時にはネットに繋がらないという設定を想定している。

今村委員：以前このICTについて総合会議でも取り扱ったが、その時から日も浅い中で一気に一人端末という話になっており驚いている。

ソフト面は徐々に充実していくのではないかとと思われるが、学習要領が変わり、コロナ対策もある中で先生方のご苦勞が心配である。その中で、ICT支援員やGIGAスクールサポーターを配置していなければならないとのことだが、本市でどのようにサポートしていくか伺いたい。

学校教育課：GIGAスクールサポーターについては、文科省でも無料で派遣してくれるシステムもあるが、常駐ではないため、計画の段階や全体の研修には有効だが、日々の対応には向かない。日々の対応はGoogleや機器を入れた事業者が頼りになり、また、八巻指導主事がトレーナーの資格を取る見込みなので、指導主事を通じて各校の核になる先生を育てていく。

教育長：八巻指導主事には、市にいていただいている間に次の指導できる人材を育成してもらいたい。研究員には定例会の後に、ICT理解深めてもらうため、ZOOM昨日を使ってリモート会議で理解を深めていただいた。

源小学校の授業風景を見たが、非常に覚えが早く、4年生で既にブラインドタッチができる子どももおり、また、先生方もレベルが高い研修を積んでいる。

教師からの質問については、データを蓄積し、閲覧で疑問点が解消できれば指導の時間が削れるのではないかと思う。

4 その他  
特になし

5 閉 会（政策推進課長）

今年度はコロナ禍で会議を中々開くことができなかった。本来はもう少し早い時期に開き、現状を共有しながらご意見をいただきたかったが、今年度については今回1回で終わりだと思う。

来年度から ICT や GIGA スクールが始まり、新たな課題も出てくると思うが、本会議でご意見をいただきながら、今後も進めていきたい。

以上